

ダイトウポウ、  
全員女性の新部署

ダイトウポウは、SDGs (持続可能な開発目標) の一つ「ジェンダー平等の実現」を、事業拡大につなげる考えだ。11月1日には繊維・アパレル事業本部にジェンダーフリー推進部を設けた。全員女性の部署で、その感性をOEM (相手先ブランドによる生産) 事業に生かす。

同推進部の構成は菅沼志おり部長と20代の4人。OEMに携わる若手の女性を集め、「男性では考えられない新し

ジェンダーフリーで事業拡大

い発想を生み出す」(山内一裕社長) 部署として発足した。メンズやレディース、布帛やニットといった垣根のない総合的なOEM事業で、ワーキングママをはじめとした

「働く女性の味方」をテーマに、メンバーの視点が生きるファッションアイテムに力を注ぐ。現在の取引先に感性を生かして応えるとともに、新規開拓を進める。事業規模は4年後に約2倍と想定しているが、当面は数値目標よりも

育成を重視する。同社は勤務時間の対応など、従来から女性が働き続けやすい職場環境の整備に努めてきた。そのため定着率が高く、実際に、「この10年で結婚や出産を理由に退職した女性はいない」(山内社長) という。蓄積を一步進め、女性が活躍する部署を軌道に乗せたい考え。

OEMに感性を生かす

菅沼部長の話 この業界に若い女性が少なく、いてもどこかくすぶっているように感じています。そこで何か見せられたらと思います。「何時までに帰らなければいけない」といったことはありますが、男性中心だと変えにくそうな、そうした部分も変えていきたいです。



菅沼部長の話 この業界に若い女性が少なく、いてもどこかくすぶっているように感じています。そこで何か見せられたらと思います。「何時までに帰らなければいけない」といったことはありますが、男性中心だと変えにくそうな、そうした部分も変えていきたいです。